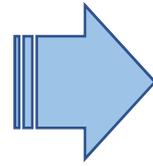


「地域創造」コースによる地域の活性化に挑む学校

地域の現状と背景

静岡県は人口は社会的要因で減少しており、大都市圏への人口流出が進んでいる。産業の街として発展した浜松市は既に産業の空洞化が進んでおり、将来を担う若者にとって魅力的な街となっていない。



地域へのアプローチの必要性

地域の問題に対し、高校生が主体的に関わる仕組みや機会がなかった。生徒自らが地域の魅力を丹念に調査し発見・再発見することで、地域への誇りを持つことが必要である。

研究開発の実施体制

<コンソーシアム> 地域の異業種交流会のメンバーを中心に、様々な業種のリーダーから構成。コンソーシアムメンバーは、カリキュラム構築を行うと共に、学校と地域社会の橋渡しを行う役割を果たし、生徒の活動を支援する。



<教員> 持続的な地域について様々なプロジェクト型学習や教科横断型の学習を行うESDを実践。担当教員は地域人材や企業と協働し、生徒のプロジェクト型学習を実践するファシリテーターとして位置づけ。



<T-Labo> 地域魅力化の実践やコースのカリキュラムについて共有や検証を行うための、学校内の教員研修組織を構成。

令和元年度の目標

カリキュラムの開発

次年度「地域創造コース」親切向け、プロジェクト型学習のカリキュラムや評価、学校設定科目の設定など、実施システムや体制の構築。



取組状況

- ・高1～3年次にわたる実践カレンダーと実施内容を構築
- ・学校設定科目として「地域創造概論・演習」を設定
- ・取り組みの系統性の検証と、評価やフィードバックの方法を検討

先行実践の教材化

先行実施して取り組んできた地域魅力発信の実践を、教科・教材化に向けたフォーマット整備と効果の検証。



- ・実践内容をコンソーシアムで検証・検討し、実施するプロジェクトを選定
- ・他県の高校と協働でプロジェクトを実施し、教材化の検証を行う

成果発表

コンソーシアムの外部メンバーの協力のもと、取り組み内容を地域で発表する場を設け、地域への還元を図る。また外部での大会やコンテストの参加による外部評価を受け、取り組み内容を振り返る。



- ・地域の企業に向け、コンソーシアム主催の報告会を実施
- ・地域の小中学生と保護者に向けて、成果発表を実施
- ・大会やイベント、コンテストに参加

成果と課題

- 学校設定科目を設け、地域の魅力発信に向けた系統的なカリキュラムを構築し、選定した実践プロジェクトをもとに初年度の地域創造コースに48名の生徒を迎えスタートする。
- 積み重ねてきた実践の内容や効果を検証し、今後の継続実施にむけた検証と修正を行った。
- 本校取り組みの特色であるArtの観点を用いたポスター制作プロジェクトを青森県鯉ヶ沢高校との協働で実施し、教材として共有できるシステムを構築した。
- 地域の企業に向けて取り組み内容の報告会を実施し、今後の活動の充実や商品化に向けての協力を得るなど、コンソーシアムが地域と学校を繋ぐ大きな役割を果たした。
- 観光甲子園2019グランプリやシビックパワーバトル2019最優秀賞を得るなど、取り組みに対し外部のコンテストや大会で高い評価を得ることができた。

- 構築したカリキュラムを実施しての検証と、取り組みに対して外部の専門家からの評価を受けていく必要がある。
- 学校設定科目の系統性や評価のシステムについての検証が必要である。